

松山理事長が第18回日本・スペインシンポジウムのモデレーターを務めました

松山理事長は、4月15日に静岡市・日本平ホテルで開催された「第18回日本・スペインシンポジウム」(外務省・静岡市共催)に参加し、「観光デスティネーションの構築：日西間の対話」と題するセッションにてモデレーターを務めました。パネラーは富屋誠一郎・国土交通省政策統括官、越智良典・日本旅行業協会(JATA)理事、マルタ・ブランコスペイン政府観光局事務局長、イニャキ・ガステルメンディ UNWTO「食の観光」世界フォーラム議長補の4名で、スペインから来日した50名を含む聴衆を前に、観光分野における両国の公的及び市民社会間の協力の可能性について活発な議論が交わされました。受入観光客数世界3位のスペインは、観光を通じた地方創生や質の高い観光素材の開発、官民連携の構築などにおいて、長年に亘る確固たる経験と世界的な評価を有しており、日本が学ぶべき点の多い国です。松山は、共にユネスコ無形文化遺産に登録されている和食と地中海料理の活用や、日本とスペインの共通の特徴であるリアス式海岸をテーマとした観光協力の一層の推進など、各パネラーの発言を織り交ぜながら日西の観光交流の今後の方向性を地方誘客と観光の質の向上の面から展望しました。その上で、観光産業を基幹産業に位置づけるための日西政府間交流と官民連携の一層の推進を提唱し討論を総括しました。今回、外務省と共にシンポジウムを主催した静岡市も、本シンポジウムにあわせて市内各所でスペインにちなんだ行事を開催するなど歓迎ムードを盛り上げました。

今秋、日本とスペイン間にイベリア航空の直行便が就航することが決まっており、日西双方向交流はますます盛んになります。JNTOはこの機を捉えマドリッドへの新規事務所開設準備も進めており、本シンポジウムの最終報告書でも同事務所に対する期待が盛り込まれました(※)

(※) 外務省 HP 第18回 日本・スペインシンポジウム最終報告書の発出

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_003218.html



松山理事長がモデレーターを務めたセッションの様子